

# No.1 「その避難訓練、命を守れますか？」

いこまこども園（杉本由美恵 友澤有沙 西田茉由 植田登世子）

## 1. はじめに

日本は地震大国である。今年度になり、地震が各地で多数発生している。西日本に住む私たちは、南海トラフ地震にも備えていく必要がある。また、地震だけでなく火災や水害など様々な災害が予想される中、私たちが今行っている避難訓練は実際の災害時に役に立つのか、子どもたちの命を守ることができるのか。

そこで本園では今年度より避難訓練係を作り、訓練後の振り返りとこれまでの訓練方法の見直しや対策の時間を設けることにした。



## 2. 取り組み

### ①時間指定なし

- 協力態勢の強化・職員間の連携
  - ・安全が確保でき次第、乳児クラスの避難の誘導（抱っこ、散歩車に子どもを乗せる、戸締り等）
  - ・避難訓練の放送を待ったり、準備（防災頭巾、ヘルメット、書類の準備）をしたりすることが無くなった。
  - ・時間や場面、職員数に応じて、より安全な避難経路を確保するようになった。



### ②避難訓練後の係での振り返り

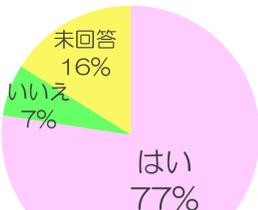
#### 保育内容に応じた避難方法

- ☆プールあそび → 上靴を履き、プールバグー式（着替え、タオル）をプールサイドに置く
- ☆園外保育 → 緊急時の避難場所の確保と安全なルート確認のため下見をし、周知する
- ☆早朝・延長保育 → 全職員が対応できるように手順のマニュアル化と実践

職員意識調査 アンケート 対象31人(非常勤職員含む)

時間指定でないことで考えの変化はありますか？

(いいえ)  
・いつ何が起こるか分からないのが常だと思っているので、スタンスはあまり変わっていない。



(はい)  
・従来の訓練より緊張感が増し、対応が的確になった。  
・物の管理や導線、多様な場面での避難の仕方について考えるようになった。  
・時間の指定がないことで、より実際の災害向けの訓練に近づいた。

クラス内で話し合う機会が増えましたか？

(いいえ)  
・勤務時間の都合上、話し合う時間がない。(非常勤)



(はい)  
・どうすればスムーズに誘導できるようになるか細かく皆で考えるようになった。  
・他クラスの問題点を知ることができ、訓練後の見直し、次回への改善点を話し合うようになった。

#### 非常袋の点検 災害備品の 購入検討



#### 安全点検票の見直し 避難ルートの見直し・点検

#### マニュアルの見直し 改善中

### ③保護者と協働した引き渡し訓練の計画

#### 目的

- 職員だけでなく、保護者と共に命を守る。
- 保護者にも避難訓練に興味を持ってもらう。
- 無事に保護者の元へ引き渡す。
- 災害時に園と情報共有をスムーズに行う。



## 3. 取り組みの中で見えてきたもの

- ・様々な保育場面で災害が起こった時を想定して、訓練に備えるようになってきている。
- ・時間指定をなくした事で、咄嗟の判断、場面に応じた連携体制を取るようになりつつある。
- ・安全点検票項目や災害備品の見直しをした事で、避難訓練に必要な物が明確化された。
- ・係で集まる事で、各クラスの反省や改善点が共有でき、活発な意見交換ができるようになった。
- ・職員の意識が高まった事で、子どもたちとの話し合いの時間をもち、考えを出し合うことによって子どもの意識も高まってきている。

### 【今後の取り組み】

- ・引き渡し訓練の実施に向け、保護者会と調整中。
- ・新年度毎に全職員での園内研修を計画。
- ・園外保育などで災害が起きたことを想定して、各クラスで話し合い、計画を立案する。
- ・保護者と子どもの災害に対する会話のきっかけ作りとして、避難訓練の様子をホームページに載せる。

だんごおしのポーズで頭を守る子どもたち

地震を想定した避難訓練

